

令和5年7月 岩手県教育委員会定例会 会議録

- 1 開催日時
開会 令和5年7月24日(月)午後1時30分
閉会 令和5年7月24日(月)午後2時20分
- 2 開催場所
県庁10階 教育委員室
- 3 教育長及び出席委員
佐藤 一 男 教育長
新妻 二 男 委員
島山 将 樹 委員
宇部 容 子 委員
小野寺 明 美 委員
泉 悟 委員
- 4 説明等のため出席した職員
佐藤教育長、菊池教育局長、坂本教育次長兼学校教育室長
西野教育企画室長兼教育企画推進監、古川予算財務課長、度會学校教育企画監、中村高校教育課長、千田生徒指導課長、大森教職員課総括課長、菊池保健体育課総括課長、小澤生涯学習文化財課総括課長
教育企画室：菊池主任主査、高橋主事(記録)
- 5 会議の概要
第1 会期決定の件
本日一日と決定
第2 事務報告1 令和5年6月県議会定例会の概要について(教育企画室)
別添事務報告により説明

宇部委員：資料の3ページと5ページの、中平議員さんの質問に対する答弁について意見が2点です。

1点目はICTの授業での活用についてですが、これまで何校か学校訪問させていただきましたけれども、どの学校においても予想以上に活用されていると感じております。発達段階に応じて個別最適な学びや協働的な学びに繋がる活用例を見ることができました。また、特別支援を要する子供たちにとってはとても良いツールであると感じております。今後も効果的な活用例について、ぜひ県内に広めていただきたいと思います。

2点目は、ICT教育の地域と学校間での取り組みの差についてです。答弁にもありましたとおり、地域や学校によって差が出てきているようですが、全県的にICTの環境が整えられ、各地域や学校のリーダーの意識が大切かと感じております。県では昨年度、情報活用能力の体系的な例の作成をしていただいておりますので、諸会議を通じて各校でのICTの日常的な活用を確かなものにしていただけるように推進していただければと感じております。

西野教育企画室長兼教育企画推進監：ICTの活用ですが、お話いただいたとおり先生の意欲や意識の高まりを感じる一方で、取り組みの差が如実に出てきたなと思っております。その原因として、プロジェクトチームでも話題になるのはハード整備部分です。具体的には回線が遅く、何かやろうとすると待機時間があり、先生方、子供たちの意欲も落ちてしまうと聞いております。他にも、先生方がどこから手をつければよいかと迷っていることや、教材の研究などのソフト的な部分も多様な課題があるなど認識しております。ただ、今年度におきましては、教育長が県内全地域の地区校長研修会で、ICTの活用について直接各校長先生方にも呼びかけて意識づけなども図っていただいております。「まずは使わなくては」「使うべきものなんだ」という認識はできておりますので、これからはそのようなハード、ソフトの部分や様々な支援策をそれぞれの先生方へ個々に届けられるような体制を整備していきたいと考

えております。

新妻委員：2点お聞きします。1点目は、参考資料の9、10 ページにある質問に関する解釈についてお伺いします。例えば9ページの辺りですと、高校教育のあり方、特に学力向上に関わってですが、学力向上に向けて一定の規模を有した学校を残すとか、あるいは部活動の選択肢を示すとかいろいろ書いてあり、これは抜本的な県立高校のあり方の見直しが求められているということだと思います。そうするとこの解釈としては、進学等に対応できる学校や部活動を選択していけるような高校が存続、あるいは新たに作ることも含めてかと思えますけれども、そういった見直しをして欲しいということなのか、議員がおっしゃるその抜本的な見直しというのはどんなイメージなのか教えていただきたい。この辺を受けとめて、これから高校のあり方の見直しを行うわけなので、その中身をどう認識すればよいか確認したいです。

2点目は、今進めている特色入試についての記載を見ますと、文武両道により本県の競技力向上や芸術文化における成果につなげてきたものを、今回の変更で、その活躍を指導してきた優秀な指導者の意欲を低下させるのではないかという懸念が書かれています。これまでは子供たちの出願書類の中に、部活でどんな成績を収めたとか、いろいろ書くようなことがあったわけですが、そういったことは自分が自己推薦のように書くことは構わないと思いますが、学校でどう取り組むかという辺りについては、書く必要があるとなっていないので、それでは困るのでやはりそういうことを残すべきだというような意味でのご質問なのかを教えてください。今後に向けてどういうご意見があるかを知っておくべきだと思いますので、分かる範囲で結構ですので教えてください。

中村高校教育課長：まず抜本的な県立高校のあり方の見直しにつきましては、白澤議員の「一定規模の学校を残して」といったことも必要だというご指摘ではないかと思えます。そういったご指摘の中で、現在本県では、「いわての高校魅力化グランドデザイン for2031」に基づいて、質の高い岩手の高校教育の実現に取り組んでいるということと、それから進学に関しては、進学支援ネットワーク事業の中で、合同事業や各学校の進学の取り組みを支援、それから生徒の意識を向上させる高大連携ウィンターセッション等に取り組む学校を支援しているという趣旨で答えたとところでございます。

新妻委員：私が聞きたいのは、質問した議員さんが高校の抜本的な見直しをすべきだという意見の中で、学力向上に向けて一定規模の学校を残すべきだということや部活動の選択肢があるような学校、芸術も含めてですが残すべきだということを言っていると受け止められることができますが、高校の再編を後期計画に基づき進めているわけで、そこで一定規模の学校を残すということになっているわけです。しかしそれでは足りないという意味で質問されているのか、あるいは今後増やすべきだとか、もっと規模を大きくすべきだというようなレベルでのご質問なのか、その真意がどこにあるのかをお聞きしたいです。ある程度質問の趣旨が分かれば、今後の高校再編にどう生かすか、どう取り入れられるかを検討するということになると思います。「今こういう対応しています」ということはそれでいいと思うのですが、この回答で議員さんも納得したのでしょうか。

佐藤教育長：特に再質問はありませんでした。2点ご質問あったうちの1点目、一定規模の学校を残すということですが、本県は現在新たな高校再編計画の後期計画を策定し、小規模校も維持しようと取り組んできており、生徒数が減っていく中でも学級減で対応してきました。特に震災後、大きな統合をあまり行わずに対応してきた中で、このままどんどん学級減していくとすべての高等学校が小規模になり、進学等において厳しい状況に陥るのではないかと、進路の多様性等を確保するという意味でも大きな規模の高等学校も残しておくべきではないかと、という趣旨と理解しました。7ページの高校再編のところ、中学校卒業予定者が減るという中でこの現行計画の終期を見据え、「県立高等学校教育の在り方検討会議」を設置し長期ビジョンの検討に着手したということを示しておりますのでご理解いただけたと思います。

中村高校教育課長：高校入試のあり方について、制度自体は公表し説明をしているところですが、十分に説明が届いていないところもあるのではないかと捉え、この特色入試を実施することによって、部活動以外に行った様々な活動について取り組んできた過程を、生徒が志願理由書、あるいは面接等でアピールすることによって評価していく入試であるといった説明を十分にしていくことが大切だと考えており、丁寧に今後も説明していくと答弁をしたところでございます。

新妻委員：少し気になったのは、今後私たちが高校のあり方を考える時、岩手は9ブロックに分けていろいろ高校のあり方を検討していますが、全国的には全県一区みたいなのがどんどん増えてきています。9ブロックがいいかどうかは別として、一県制をとってないためにバランスよく地域ごとに生き残る方

法を考えていこうという形になっているのだらうと私は思います。先日出席した全国の会議でいろんな県の資料を見たのですが、県庁所在地や比較的大きい都市部での高校の統合や縮小というのは他の県はほとんどとっていませんでした。周辺をどう考えるかということ岩手が重要視しているがゆえに、中心部、ブロック一つとして他のブロックとの関係も考えてということは、ある意味非常にユニークであり、やはり全県を視野におさめた対応をしているのだなということ改めて感じました。

今回は、議員さんが高校再編のあり方について何か基本的な考え方があってこのようなご質問されているのかなとふと思ったものですから、そのイメージを知りたいなと思ったということです。答弁の中身がどうこうという話ではありませんでした。ありがとうございました。

宇部委員：資料の31ページ、小林議員による不登校対策の答弁に関して質問が2点あります。

1点目は、答弁の中でフリースクールとの関わりについて、4行目のところで各事務所の指導主事や在学青少年指導員がフリースクールを訪れて在籍校との情報共有に努めているということが記載されていますが、この情報共有については年間何回ほど行っているのか。加えて、フリースクールと学校の直接の連絡はとっているのかを教えてくださいたいと思います。

2点目については、不登校児童生徒の支援連絡会議について、今年度参加メンバーを拡充するとのことですが、どのようなメンバーになるのか、拡充のメンバーを教えてくださいたいと思います。

千田生徒指導課長：1点目のフリースクールに対する支援でございますが、各教育事務所に配置しております指導主事、在学青少年指導員のフリースクールへの訪問は、その教育事務所によって様々と聞いております。1回2回は最低限行くという話を聞いておりますし、子供たちの事案によってはさらに多くというところがございます。フリースクールと学校との直接の情報共有はかなり行っております。学校の先生がフリースクールに出向いて子供の様子を見て、それが学級担任だけではなくて、校長先生も行っておられると聞いています。あるいは逆にフリースクールの方が学校を訪れ、子供の様子を紹介しているということも聞いてございます。

2点目の不登校児童生徒の支援連絡会議でございますが、本年度は私立学校を所管しております関係部局、ふるさと振興部の職員の方にも参画していただこうと考えてございます。公立学校だけではなく私立学校にも不登校が多いという状況で、一緒に今後について考えていきたいと考えてございます。

宇部委員：ありがとうございました。フリースクールと在籍校との連絡が取れている様子なので、この連絡会議の効果があるなと感じております。ありがとうございました。

泉委員：8ページの高校の魅力化について、私は、地元の中学生在が地元の高校に進まない状況が多分にあり、それを解消するために地元の中学生へ「地元の高校には魅力があるんだ」ということを打ち出すためにやっていると思っているのですが、その認識でよろしいでしょうか。特色化・魅力化を打ち出したその基本的な考えをもう一度確認させていただきたいです。そして、以前に「特色化・魅力化ビジョン」という各学校が作成した冊子をいただいているのですが、そこには学校に入学した後の学びの内容があり、その上でどのような進路を選択できるのか、どのような生徒、人間性を育成して社会に出れるのか、ということが不明瞭な学校が見受けられます。これを中学生在が見た時に、本当にそれが進路選択や学校選択する時の判断の材料になるのだらうかという思いがあります。本当に魅力化・特色化を打ち出すのであれば、その内容をもう少し明確にしていく必要があると考えています。

27ページ、29ページで木村議員さんも話をしていますが、特に小規模校におけるスクール・ミッションが書かれていない部分もあるように感じました。この冊子を作って終わり、ということではないとは思いますが、今後の各学校への特色化・魅力化、そしてその発信の仕方についてどのようにお考えになっているのかを再確認させていただければと思います。

度會学校教育企画監：1点目でございますけれども、もともとの趣旨はご指摘の通り人口減少対策という側面があり、魅力ある取組をすることによって生徒を確保する、その高校を中心としたその地域の魅力化を行う、生徒自身がその学校教育活動を通じて魅力的な存在になる、この3点から取り組んでいるところでございます。冊子のお話がありましたけれども、スクール・ポリシーとかスクール・ミッションについては各学校が定めています。去年、各校に作っていただいて、十分な出来栄のところだとか、まだ試行錯誤しているところもありますけれども、私もある高校でその学校の取組がその域内の中学校ですら知らない、こんなに良い取組をしていたという話を聞いたりします。そこでは、自分たちも一生懸命発信はしているけれども、県教委として中学校にアピールしていくような形を考えていただきたいということを言われ、我々も進めていかなければいけないなと思っています。

ハイスクールガイドについて、今までは冊子で配っていましたが、それを全部デジタル化してホーム

ページに載せて、学校ごと、地域ごとに比較しています。また、子供たちも直接アクセスできるような形にして、その中でスクール・ポリシーやスクール・ミッションを載せていますので、そういった形で見やすく改善を図ったところがございます。

泉委員：中学生にとっては自分の将来に対する進路実現を、この学校に入学して卒業すれば得られるのかというところがやっぱり一番重要です。それが専門教育であっても、そのスペシャリストになって社会に出て、そしてそこで活躍する、あるいは上級学校に進んで専門性を身につけてという、それぞれの子供たちの思いを十分体現できるような教育活動があるということをしっかり周知していく必要があると思います。学校ごとに単体で行っている活動があってもそれがなかなか浸透していないと感じていましたが、中学生へどんどん発信をしていくというような発言があったので、安心した部分もあります。しかし、中学生があまりこの情報を知らない、高校は一生懸命発信しているけども中学生に浸透していないという現状があると思うので、さらにそれを周知できるような体制を作っていただければと思います。よろしくをお願いします。

小野寺委員：いただいた資料でも、いじめ・不登校についての質問が多く、やはりみなさん関心がある部分だと思います。23 ページの千葉議員さん、もう一つ踏み込んだ施策や提言が必要ではないかとおっしゃっていますが、取組はこれまでもずっとやってきていると思います。不登校に実際になった子の対策、そして未然防止に対する対策。どの学校も一生懸命行っていると思いますが、そのあたりが見えていない部分もあるのでしょうか。頑張っているところもなんとか分かってもらえたら良いのですが、少し歯痒い思いです。学校訪問をしていると、もちろん不登校になった子供たちの多様な対策をしていますし、とある中学校の中ではとにかく自分の居場所として、自分の存在を安心していれる場所として学校があるべきということで、自分が頑張っていることも、みんなに知ってもらおう。そして、みんなから「こんなこと君は頑張ったね」ということをしっかり評価してくれて、それを文章にして提示する取り組みもなされていて、なかなか良いなと思いました。その授業を見たときには、指されて答えがうまく言えなかったことに対して、その周りの方がすごく一生懸命助け船を出していました。先生はもちろんそれを分かっている、周りの生徒も分かっている、とっても良い授業の雰囲気だなと思いました。ですので、全ての学校がそのような雰囲気をつくることができれば良いと思っていますし、先生方も一生懸命そうやって頑張っているんじゃないかなと思いました。そこでその学校の校長先生に何を大事にしているのか尋ねたところ、少し考えた末に「先生方はとにかく生徒を大事にしている、それだけです」とおっしゃっていて、その気持ちは基本でとても大事だろうなと思います。今、こども基本法という言葉もありますけれども、少子化でもあり、子供をきちっと大事に育てていく、学校だけではなくて、周りの社会も私たち大人もそういう目で見ていかなくてはならないなと感じた次第です。

千田生徒指導課長：いじめに関わること、それから不登校に関わることを議会でも取り上げていただいているところがございます。おっしゃるとおり、特に安心して子供たちが学校生活を送れることが大事ではないかなと思っています。

今年度の地区の校長研修講座で県内6か所を回って、直接校長先生方といろいろなお話をしたり、聞いたりしたところがございます。学校は本当に一人一人に丁寧に対応しているという実感でございますし、未然防止の取組といたしまして、魅力ある学校づくり、各学校の実態に応じて様々な工夫をしていることも聞いたところがございます。また、不登校の未然防止だけではなく、何かあったときの初期対応、これも非常に大事だということ、そして、その際には、いじめ対応・不登校支援等アドバイザーにも相談できる体制を作ったところがございますが、こちらの周知もかなり進んでいるということを実感したところがございます。今後につきましても、いじめ・不登校の初期段階の適切な対処、さらにはそれ以降の様々な支援についても対応してもらいたいというところがございます。

畠山委員：宇部委員と小野寺委員と重複してしまうところがありますが、フリースクールの支援について一つだけお伺いさせていただきたいと思っております。資料ですと31 ページ、先程宇部委員からご指摘があった、フリースクールを含む様々な団体との連携を深めるというところ、答弁の下から3行目のあたり、これからメンバー拡充するなど内容の充実を図るということにしている点についてでございます。民間団体はそのような人たちの居場所、あるいは学びの機会を確保しなければならないという使命感を感じて、収益、採算等は合わない中で一生懸命やっている例がほとんどではないかなと思います。一方で、それであっても利用者からするとやはり月々の費用がかかり、通わせようとするとかかなり負担が大きいのが現実かなと思っています。

それをどう支援できるのか考えると非常に難しい問題だと思いますが、COCOLO プランなどでも連

携がうたわれている以上、教育委員会としてできることはやるという姿勢が必要だと思えます。

ですので、この会議、非常にいい機会になっていると聞いておりますので、ぜひ民間団体が何を求めているのか、教育委員会がそれに対して何をできるのか。そして、できることに積極的に取り組み、それを具体的に協議できる場として内容を充実させていただきたいと思えます。

千田生徒指導課長：フリースクールとの連携のあり方については非常に大事だと思っており、この連絡会議は本年度も開催する予定にしております。これまでフリースクールの方々からお話等いただいて、それぞれの施設での活動、そして、その支援の考え方などについても、フリースクール間の情報交換、非常に有効だというお話を聞いてございました。また、考え方だけではなく財源、あるいは人件費の確保についての工夫についても、フリースクール間で様々情報共有していることも有効だと聞いてございます。さらには、学校とのやりとりの中で出席扱いだとか、あるいは校種が切り替わる時の留意点工夫なども話題になっているということで、子供たちの学びを止めない支援のあり方ということも重要になってきているということを改めてこの場でも確認したところでございます。引き続き、子供たちの居場所づくり、学びの機会の確保に向けて、こういった会議の充実に努めて参りたいと考えてございます。

新妻委員：キャリア教育と高校魅力化に関する質問について感想です。キャリア教育というのは、子供自身がいろんな知識、情報、体験等いろんなものを通じて自分の将来や進路等を主体的に自ら判断できるような力を養うということだと思えます。そのためには、様々な地元産業について知るとか、日本の企業産業について知るとか、手法はいろいろあるということによく分かります。ただ、「キャリア教育が地元定着に貢献したか」ということ自体を目的にしていると捉えられると少しまづいかなという面もあると思えます。魅力化についても、地域や学校あるいはそこで学ぶことの魅力等を見出し、それを通して地域で頑張っていきたいというような子供たちが出てくることを大いに期待したいと思えますし、またそうやって欲しい部分もあるわけですが、一方でそのことが目的かと問われるとこれは結果としてそうやっていただければ一番いいということだと思えます。外から見るとそうやって欲しいという願望がどうしてもありますので、地元への定着が芳しくしないとすれば失敗だと思われがちですが、そのような単純なものでもないと思えます。その辺も含めてもっとも我々自身も知る必要があるし、学校関係者あるいは保護者の方々にも、こういうものであって結果そうなればいいということと区別しながらお伝えしていくことが必要かと思えます。

佐藤教育長：今の点、私から少し説明させていただきます。飯澤議員の質問の前提には、本県にある誘致企業の大企業等へ就職した数だけをもって評価がなされるような風潮があるが、県内の就職先について目を向けた場合に、大企業もあるがそれを支えているような中小地場もあるのだから、そういうところにもしっかり目を向けた指導をすべきではないかというお考えがあります。趣旨としては、大企業だけではなく中小企業が 99.8%を占めているという産業構造にも目を向けた指導というもすべきということでしたので、先生がおっしゃる地場、地元だけじゃないですよという御指摘はそのとおりでございます。

新妻委員：就職指導やキャリア教育が増えないと困るということですよ。地元就職すればキャリア教育が成功したという見方は好ましくないと思えますので、これは我々もわきまえないとまずいと思えます。キャリア教育の支援をなぜやるかというときに、最終的には子供たち自身が自分の進路や人生について、まず自ら判断できるような力を身につけてもらうことが必要で、そのために必要な情報や知識とか経験として地元企業を覗いてみたり話を聞いたり、あるいは資料を調べてみたりとか、そういうことは必要だと思えますが、そこに貢献するという意味では決してないということも改めて私自身も確認しておきたいと思えます。その辺がこの短い文面で見ると少し気になるなというだけでございます。

第3 議案第14号 岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて(生涯学習文化財課)

別添議案により説明

原案どおり決定

議案第15号以降については、非公開とする議決がなされた。

第4 議案第15号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて(教職員課)

別添議案により説明

原案どおり決定

[停職6月 担当業務の処理不適正及び電磁的記録の偽造 40歳代 男性 県立学校 主査級]
[戒告 管理監督責任 50歳代 男性 事務局等]

第5 議案第16号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて(教職員課)

別添議案により説明

原案どおり決定

[戒告 交差点安全進行義務違反(重傷事故) 58歳 男性 中学校 教諭 盛岡教育事務所管内]

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。